

令和2年度第1回みやま市総合教育会議 会議録

- ◆日時 令和2年5月28日 午後1時00分
- ◆場所 みやま市役所4階 大会議室

1. 出席構成員（6名）

- ・市長 松嶋 盛人
- ・教育長 待鳥 博人
- ・教育委員 井上 正明
- ・教育委員 樺島 靖子
- ・教育委員 宮本 篤
- ・教育委員 北原 八州子

2. 事務局出席者（13名）

市長部局

- ・総務部長 西山 俊英
- ・秘書広報課長 久保井 千代

教育委員会

- ・教育部長 野田 圭一郎
- ・教育総務課長 堤 則勝
- ・学校教育課長 藤吉 裕治
- ・社会教育課長 山田 利長
- ・指導室長 上田 理彰
- ・学校教育課課長補佐兼  
学務担当係長 北嶋 淳一郎
- ・社会教育課課長補佐兼  
社会教育担当係長 森 英臣
- ・教育総務課総務担当係長 小柳 るみ
- ・教育総務課学校再編推進担当係長 中島 豊晴
- ・教育総務課施設係長 井口 剛
- ・学校教育課給食担当係長 石橋 将和

3. 次第

1. 開会（市長あいさつ 教育長あいさつ）
2. 議事録署名人の指名
3. 議事（協議・報告事項）

(1) 今後の学校再編（第4グループ統合）について

(2) 各課報告協議

①教育総務課

②学校教育課、指導室

③社会教育課

4. その他

5. 次回開催予定

**当日配布**

・令和2年度第1回みやま市総合教育会議資料

○学校再編について

○新型コロナウイルス感染症対策におけるみやま市独自支援策（第2弾）

○みやま市学校給食在り方検討会での検討内容

○GIGA スクール構想実現の加速 事業スケジュール

○学校再開後の教育活動について

○みやま市地域学校協働活動推進（活動の柱）

---

**【午後1時00分 開会】**

1. 開会

市長あいさつ

皆様には大変お忙しい中、令和2年度第1回みやま市総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。本市の学校教育及び社会教育に関しまして、皆様方の日頃のご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が世界中にパンデミックを起こし、日本においても沢山の方々がお亡くなりになったことに関しまして、心より哀悼の意を表します。

また、医療関係の皆様や学校教育及び社会教育関係の皆様には、この2、3ヶ月の間大変ご心配ご心労をかけたと思いますが、ご協力のお陰でこのみやま市におきましては、一人の感染者も出さずに済んだことは、大変有難いことでもございます。

しかしながら北九州市が昨日、一昨日と出ておりますし、第2波が来る可能性も非常に考えられます。ですから気を抜くことなく、今後も対応策やっけていながら、感染者の出ない安全安心のまちで子ども達を育成していかなければならないと思っております。そのためには、皆様方より引き続きご尽力を賜りたいと思っております。

本日は第1回のみやま市総合教育会議において、学校再編(第4グループ統合)について等、様々な協議及び報告がありますので、お知恵を拝借しながら進めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 教育長あいさつ

新型コロナウイルス感染症に伴う学校休校が3月から続いておりましたが、やっとみやま市では5月18日より分散登校を開始し、25日より全面再開することが出来ました。更に、給食も昨日より始まって、子ども達は本当に給食を楽しみにしているという声も沢山寄せられています。学校でも子ども達が落ち着いて生活をしているようです。校門に立って様子を見たところ、非常に明るい表情ではありましたが、色がとても白いなど思ったところです。学力面を色々言われておりますが、体力面も非常に落ち込んでいると思うし、心の問題もしっかり今後見つめていかなければならないと思っています。

本年度は、みやま市教育大綱の基本理念にあります「みやまに学び みやまを愛し みやまに貢献する人づくり」を根本に据えて、人権尊重の意識を高める教育・啓発の推進、違いを認める教育というところを学校教育、社会教育全ての根底に置くこととしています。学校教育では、「社会にはばたく力」、「確かな学力」、「心豊かでたくましく生き抜く力」の育成を目指し、社会教育では、「やりがい、生きがいのある健康長寿」を目指しております。

コロナに関しましては、まだ予断は許さない状況でありますので、市長部局としっかりと連携しながら教育を推進していこうと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 議事録署名人の指名等

(市長) 松嶋 盛人

(教育委員会) 教育委員 宮本 篤

・・・全員同意・・・

## 3. 議事(協議・報告事項)

(1) 今後の学校再編(第4グループ統合)について

【教育総務課長】 統合校開校までのスケジュール、工程表について、統合小学校(第4グループ)の児童数及び必要な教室数、概算工事費等について、統合小学校(第4グループ)に必要なスクールバスシミュレーションについて説明 [資料P1～P8]

【市長】 質疑等はありませんか。

【井上教育委員】 資料1ページに合意形成を求める情報交換会を実施し、次に関係校区からの合意形成の報告をもらうとあるが、今の段階で合意形成の状況はどうか。

【教育総務課長】 今のところアンケート調査のみで、まだ各校区へ説明はしていないが、アンケート結果を見ると4校統合については賛成及びやむを得ない分を合わせ8割程度は前向きな回答となっている。

【井上教育委員】 統合後の場所についての状況はどうか。

【教育総務課長】 4校統合後の場所について、4小学校のいずれかを活用したほうが良いという回答は全体の47パーセントで、高田中学校の校舎や敷地等を活用したほうが良いという回答は、全体の34パーセントとなっている。

【市長】 合意形成はどのような形で考えているのか。

【教育部長】 合意形成は地域の皆さんの賛同を得るということで、そのためには住民説明会を開催する必要があるため、このスケジュールのとおり各校区への説明会を予定している。説明会後は校区の皆さんからのご意見を集約し、校区ごとの考えをまとめていただきたいと思います。このような経過を踏んで次に進んでいく考えである。

【井上教育委員】 ちなみに、明確な反対はないのか。

【教育部長】 開校区や江浦校区はどちらかという前向きであり、二川校区は二川小学校を活用すれば、反対は出ないのではと考えている。また、岩田校区は高田中学校を活用すれば、賛成のほうが多いのではと考えており、そこの調整が必要になってくるため、どちらを活用するのかきちとした方針を説明会の時に示していかなければ、次の合意形成には進めないと思っている。

【宮本教育委員】 アンケート調査をした際には、概算の費用やスケジュールが示されないままの状態だと思うため、概算等を出して説明会を実施すれば意見が変わってくるのではないかと思う。

【総務部長】 例えば高田中学校を活用した場合に小中連携の考え方があるが、教育委員会として小中連携の部分をからめるという考えはあるのか。

【教育長】 小中連携については、保護者の立場を考えると積極的ではない。

【教育部長】 アンケートの結果は賛成が37パーセント、反対が41パーセントである。賛成は高田中学校がある岩田校区が多くなっている。

【井上教育委員】 明らかに1中1小になるため、むしろ小中連携した形で校舎を考えていきたいと出した上で、保護者の心配部分を説明していくようにしたらいいのではと思う。

【樺島教育委員】 小中連携のイメージが湧かないのだが、メリットはどんなのがあるのか。

【教育長】 小中連携のメリットは、中学生が小学生に対する思いやりの心が醸成出来る、小中の接続、今でも小6から中1に上がるところで中1ギャップが生まれているため、小中連携で小中一貫となれば学校の雰囲気分かる。やはり9年間で子どもを育てるというスパンが出来るため、みやま市が狙っているような教育が出来るのではないかと考えられる。

【市長】 本日この2案が出されているが、費用対効果の面や地理的な面の部分で、どちらかに絞って提案しないと意見が割れることになると思うため、本会議において方向性を出すべきだと考える。

小中一貫校を沢山見てきたが、人数的にみると高田中で1小になった場合は、小学校と中学校の人数を合わせると相当な人数になる。

以前、大分県の小中一貫校に行ったことがあり、中学校の先生が小学校へ小学校の先生が教科担任制を経験する等交流が図られていた。

ただ、中学校の部活動に関しては完全に別であった。

また、人数が多いと小学校の先生と中学校の先生となると意思の疎通が一部の先生に偏ってしまい、うまく出来ないという部分もあるし、大きい学校では色んな問題点があったと思う。

一方、別の学校では小中全生徒合わせて100人位だったが、人数が少ないため先生方の意思の疎通が図られていた。人数が多い所のメリット、デメリットがあり、多い分沢山の人達と交わることが出来る、逆に少ないところだと小中から全然変わらず人間関係が固定化することになる。この様なところも考えていただきたい。

1案及び2案のメリット等について事務局の考えを伺いたい。

【教育総務課長】 1案である二川小学校を活用する場合は、工事費の面では安く済むと考えられる。先ほどの小中連携、小中一貫に関する教育の新たな体制については、2案である高田中学校を活用したほうが良いと考えられる。

【市長】 皆様方には難しい選択だと思われるが、いかがか。

【総務部長】 市全体で人口が減少している中で二川校区は人口が増えており、定住者から教育環境が良いとの声を聞くため、二川小学校を残したほうが良いと考える。また、高田中学校を活用する案は、金額面では1案と相当な違いがあるが、小中連携をしたほうが金額を増やしてでも教育的な価値があるというような側面が見いだされれば、考えてみてもいいのかなと思う。

【教育長】 小中連携及び小中一貫についてだが、この4小学校と高田中学校は少し規模が大きく厳しいところもあると考えられる。

【樺島教育委員】 当初は、財政面から二川小学校を活用したほうが安いと思ったのだが、小中一貫教育の9年間で子どもを育てると考えると、このコロナの時代だからこそ、学力面等で9年のスパンで見ると何とか教育が出来るのではと思ったところである。  
しかし、この地図から4小学校区の中心地となると、やはり二川小学校が適当ではないかと思う。

【宮本教育委員】 当初の目的は、開小学校の複式学級解消であったと思うため、スピード感を持って進めるべきであり、住民の合意形成が出来ず、行程が遅れることになれば当初の目的が達成出来なくなるため、スピード重視だと考える。

【市長】 事務局としては、どちらの案を考えているか。

【教育部長】 資料として提示しているのは、どちらかといえば経済的な分での比較である。どうしても、教育効果を外しての協議は出来ないと思う。  
先程から小中一貫の話が出てきているが、現在も小中高連携のプロジェクト会議を設置し方策を立てて小中連携を図ってきているため、小学校と中学校が別であっても連携を深めることで効果は高まると考えられる。一方では、一緒にした方がいいとの考え方もあると思われる。  
やはり、子ども達の教育環境を良くするために統合を進めたいということで、説明会を行っていききたい。

【市長】 ここでしっかり議論した上で持っていかないと、スケジュール面で合意形成に至るまで大きな労力を要する。説明会では、こういう面で統合というご理解をいただきたいということで、きちんと進めていかなければならない。  
これまでで、二川小学校で進めるとのご意見が多かったため、1案である二川小学校を活用する方向で進めていくことでよろしいか。

・・・全員同意・・・

## (2) 各課報告協議

### ①教育総務課

【教育総務課長】 新型コロナウイルス感染症対策における支援策(第2弾)について説明  
[資料P12～14]

### ②学校教育課、指導室

【学校教育課長】 今後の学校給食運営について説明 [資料P 15]

【市長】 A案、B案、C案とあるが、正規職員と臨時職員の部分で、例えばC案を進めていく上で、A案にするか、B案にするかという考え方はないのか。

【学校教育課長】 どこか最終的な方向性が決まれば、この案の組み合わせも考えられる。

【市長】 現在は殆ど自校方式で実施しているが、正規の調理員数が不足するのは何年度になるのか。

【学校教育課長】 来年度の正規の職員数は18名で、令和5年度には14名となる。先程の学校再編が予定通り進み学校が統合されるならば、人数としては何とか出来る形にはなるが、先が見えない事のため何らかの手を打つ必要があると考えている。

【市長】 この3案に移行していかねばならないと、皆様には認識していただけたらどうか。  
どういう方式にしていくのかは、今後検討していかねばならない。

【井上教育委員】 学校給食センターの問題2つあると思う。1つは自校方式のほうが温かくていいという考えであり、今は配送しても同じ温かさで手元に届くということをあまり保護者がご存じないことだが、これは解決すると思う。もう1つは、統合の問題を考えた時に、今更拠点校に作って近隣の学校に配送する考え方は通用しないと考えられる。  
見通しとしては、センター方式だと思う。

【学校教育課長補佐】

GIGAスクール構想（ICT事業）の加速化について説明  
[資料P 16～17]

【宮本教育委員】 校内のLAN工事と端末の整備を別々にするようになっているが、1社にまとめたら費用等が抑えられるのではないのか。

【学校教育課長補佐】

LAN工事は基本的に工事業者が行い、通常の機器等の整備業者ではないということ。端末の整備は県の共同調達ということで、県が機種を絞り込み一括して発注しコストを下げるという方法を取っているため、別々に分かれている。

【宮本教育委員】 このようなネットワークの機器や端末は陳腐化が早いため、5年程度で買い替えになるのだが、その場合は補助の対象となるのか。

【学校教育課長補佐】

今回は国の補助事業となるが、今のところは次回買い替え時は各自治体の負担となっている。

【指導室長】 学校再開後の教育活動について説明 [資料P 18～19]

【総務部長】 柳川市は2学期制とのことだが、メリットは何があるのか。

【指導室長】 職員は2回の評価で済むということ、年間を通して児童生徒の授業日数の確保が出来るというメリットがある。  
2学期制も検討してみたが、高校入試を考えた時に評価を3回した方が中学3年の生徒に対しての安心感というか将来を見据えた進路をどうしていくのかを確実に伝えられるということで、中学校からも要望があり3学期制にしたところである。

【市長】 1学期は8月28日迄で、その日が終業式となっており、そこで通知表等の評価を出すことになると思うが、今回のコロナウイルスに関しての先生方の負担感というか、一番心配するのは28日に評価を出すことについて、そのあたりはどうお考えか。

【指導室長】 5月下旬より授業が開始され、8月下旬に終業式を迎えることになるが、実質2ヶ月強授業を行ってきたため、授業をしていく中で評価が出来る範囲で評価をし、まず、1学期の子ども達の学びの姿や頑張っているところを保護者や子ども達に伝えようと考えている。

③社会教育課

【社会教育課長】 次世代の学校・地域創生みやまプロジェクトについて説明  
[資料P 20～21]

4. その他 特になし

5. 次回開催予定 令和2年10月下旬～11月上旬

【午後2時58分 閉会】